

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターわっこ		
○保護者評価実施期間	2024年11月25日		～ 2024年12月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数) 13名
○従業者評価実施期間	2024年11月25日		～ 2024年12月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数) 15名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	出雲市民リハビリテーション病院内にある事業所であるため、医師や小児リハビリスタッフ、看護師など多職種で連携して支援を行うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用児に関する情報共有や支援方法をスタッフ同士で随時行い、利用児に合わせた支援ができるよう心がけている。 ・定期的にリハビリスタッフを含めた勉強会を行い、事例検討や専門知識の勉強を行う機会を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリスタッフをはじめとした専門職の職員にも積極的に意見を聞き、わっこ職員の視野が広がり支援に反映できるよう取り組む。
2	写真カード・スケジュールボードなどの視覚支援や、机や椅子、座位保持装置など個々に合わせた道具の使用を、小児リハビリスタッフと連携して行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用児の安全面や安心して過ごせることに配慮し、環境調整や関わり方の工夫をしている。 ・利用児の発達段階に応じて適切な道具や支援方法を職員間で検討し、取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用児の使用道具や椅子等が変更した場合、担当者以外も対応できるよう情報共有を徹底する。
3	水曜日を親子通園(半日)にしており、保護者にプログラムに参加してもらいながら、子どもとの遊び方や関わり方、子育てに関するサポート、保護者同士の交流の場を設けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい遊びや簡単な手遊び、一緒に楽しめる運動遊びなど、親子で親しみやすい内容を考え実施している。 ・初めての集団の場という親子もおられるため、利用児のペースや保護者の気持ちに寄り添いながら関わるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者同士の交流の場である茶話会の内容が充実するよう職員間で検討し、事前告知をして参加者が増えるよう取り組む。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	部屋のスペースが狭い。追いかけてこや遊具を使った運動サーキットなどを行うと、十分に体を動かすスペースが確保しにくい。	<ul style="list-style-type: none"> ・建物の構造上広いスペースを確保することが難しい。 ・安全面における懸念があるため、外のスペースを十分に活用できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外のスペースを活用した活動の幅が広げられないか、職員間で検討する。 ・活動によってグループを分け、個々のニーズに合った活動が提供できるよう工夫する。
2	保護者交流の場として月に1回茶話会を開催しているが、保護者会やきょうだい同士で交流する機会がない。	<ul style="list-style-type: none"> ・茶話会では参加保護者が限られている。また、複数の家族が参加する行事等を実施していないため、家族同士の交流の機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者やきょうだいの交流の機会をどのような形で作る事ができるか検討する。
3	家族に対して、家族支援プログラムや家族の参加できる研修会（勉強会）を実施していない。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の専門的知識や時間的余裕が足りない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が家族支援につながるような内部・外部研修会へ積極的に参加する。 ・家族が学べる場をどのような形で提供できるか、職員間で検討する。